

各関係機関の長 様

福井県農業試験場長
(公印省略)

農作物病害虫発生予察予報の送付について

このことについて、下記のとおり発表しましたので送付します。

連絡先 福井県農業試験場 病害虫防除室 Tel 0776-54-5100 FAX 0776-54-6403 E-mail byogaichu-boujo@fklab.fukui.fukui.jp

平成28年農作物病害虫発生予察予報第5号

7月の気象概況

平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。

[水稻関係]

病害虫名 葉いもち

1 予報内容

発生時期：進展期は7月3半旬、発病最盛期は7月下旬
被害程度：少発、ただし山間、山沿い、常発地では中発
発生量：平年、前年並み

2 防除対策および防除上の注意点

- (1) 散布剤での防除適期は初発の1週間後である。散布時期が遅れると防除効果が劣るので、注意する。
- (2) 薬剤を散布した圃場でも、上位葉に新たな病斑が見られた場合は、散布10日後に追加防除を行う。
また、粒剤を施用した圃場でも、病斑の発生が認められる場合は追加防除を行う。
- (3) 降雨続きの際は雨のやみ間を見て、雨のやみ間がない時は小雨の時にでも薬剤を散布し、防除が遅れないように努める。
- (4) 直播栽培等熟期の遅い作型では、葉いもちの発生が多くなる恐れがあるので、的確に防除を行う。
- (5) 葉いもちが多発している圃場では穂肥の施用を控えめにする。

病害虫名 早・中生穂いもち

1 予報内容

発生時期：初発は7月6半旬頃
被害程度：少発
発生量：平年、前年並み

2 防除対策および防除上の注意点

- (1) 出穂直前と穂揃直後の2回、粉剤または液剤で防除する。特に葉いもちが発生している圃場では、葉いもち病斑から穂への感染を防ぐために出穂直前の防除は必ず行う。
- (2) 出穂直前の低温や、穂揃期以降に降雨が続くなど多発が予想される場合は、傾穂期に粉剤または液剤で追加防除を行う。

- (3) 防除時期に降雨が続く場合は、雨のやみ間をみて、適期に防除を行う。
- (4) 穂いもちの予防剤は、薬剤によって施用時期が異なるので注意する。葉いもちの見られる水田では、粒剤は施用せず、出穂期に粉剤または液剤で防除する。また、粒剤を施用した水田でも多発が予想される場合には、出穂期に粉剤または液剤で防除する。

病害虫名 白葉枯病

- 1 予報内容
被害程度：少発
発 生 量：平年、前年よりやや多い
- 2 防除対策および防除上の注意点
(1) 常発地では穂いもちの防除を兼ねて、出穂3～4週間前に粒剤を散布する。
(2) 窒素質肥料の過用を避ける。
(3) 畦畔や水路の雑草を除去する。

病害虫名 紋枯病

- 1 予報内容
発生時期：垂直進展初期は平年並みの早生7月3半旬、中晩生7月5半旬
被害程度：少発
発 生 量：平年、前年よりやや多い
- 2 防除対策および防除上の注意点
(1) 茎葉散布剤で防除を行う場合、8月上旬までに出穂する圃場では、穂ばらみ期に薬剤を散布する。穂ばらみ期の発生株率が、早生では10%以上、中生では20%以上ならば防除が必要である。しかし、倒伏すると進展しやすいので、倒伏が予想される場合は基準に達していなくても防除する。
(2) 8月中旬以降に出穂する圃場で、発生が多い場合は、7月下旬に薬剤を散布する。
(3) 粒剤を散布した圃場でも、多発生が予想される場合には、茎葉散布剤による防除を行う。また、穂ばらみ期に防除を行った圃場でも、降雨が続き多発生が予想される場合は穂揃期に追加防除を行う。
(4) 散布時には、薬剤が株元の病斑によく付着するように散布する。

病害虫名 ニカメイガ

- 1 予報内容
発生時期：第1世代成虫発生最盛期は平年より早い7月4半旬頃
第2世代幼虫加害初期は平年より早い7月5半旬頃
被害程度：少発、局中発
発 生 量：平年より少なく、前年よりやや多い
- 2 防除対策および防除上の注意点
(1) 越冬世代の発生が早かったため、第1世代の発生も早いと予想される。そのため、発生の多い所では、7月4半旬から7月5半旬（第1世代成虫発生最盛期から5日後まで）に防除を行う。
(2) 前年発生が多かった圃場および周辺の窒素過多圃場、直播栽培等熟期の遅い作型、もち品種等で多発し、白穂や倒伏等の実害が出るので適切な防除を行う。
(3) 坂井地区以外でも発生が増加しているため、他の地域でも注意する。

病害虫名 ツマグロヨコバイ

- 1 予報内容
発生時期：発生最盛期は8月3半旬頃
被害程度：少発
発 生 量：平年、前年並み
- 2 防除対策および防除上の注意点
(1) 6月下旬の時点での発生量は少なく、7月の防除の必要はない。

病害虫名 セジロウンカ

1 予報内容

発生時期：加害盛期は8月3半旬頃

被害程度：少発、局中発

発生量：平年並み、前年より多い

2 防除対策および防除上の注意点

- (1) 7月中旬に1株当たり成虫が4頭以上、7月下旬～8月上旬に1株当たり幼虫が30～40頭以上の場合は防除する。

病害虫名 イネツトムシ (イチモンジセセリ)

1 予報内容

発生時期：第2世代幼虫加害最盛期は7月4半旬

被害程度：少発、局中発

発生量：平年並み、前年より多い

2 防除対策および防除上の注意点

- (1) 直播栽培において7月下旬の若齢幼虫数で1㎡あたり4.4頭以上の場合は防除する。
(2) 葉色の濃いイネに産卵が多いので、注意する。

病害虫名 イネアオムシ (フタオビコヤガ)

1 予報内容

発生時期：第2世代幼虫加害初期は7月4半旬頃

発生程度：少発、局中発

発生量：平年より少なく、前年より多い

2 防除対策および防除上の注意点

- (1) 過繁茂のイネでは多発生しやすいので注意する。
(2) 山間地など風通しの悪い地域では多発生しやすいので、防除が遅れないようにする。

[ダイズ関係]

病害虫名 ウコンノメイガ

1 予報内容

発生時期：第2世代幼虫加害初期は7月5半旬

被害程度：少発、局中発

発生量：平年、前年よりやや少ない

2 防除対策および防除上の注意点

- (1) 葉の巻き始める若齢幼虫期の防除が効果が高い。
(2) 山沿いの圃場での発生が多くなる。
(3) 葉色が濃く生育旺盛な圃場で被害を受けやすいので注意する。

[野菜関係]

野菜名	病害虫名	予 報 内 容			防除対策および 防除上の注意点
		発生時期	被害程度	発 生 量	
スイカ	つる枯病	最盛期： 7月中旬	少発 (局中発)	平年：少 前年：並み	1) 圃場排水に努め、敷きわらを行うとともに、過繁茂を避けて、通風をよくする。 2) 被害葉を除去し、圃場外で処分する。 3) 同一系統薬剤の連用は避ける。
	炭疽病	最盛期： 7月中旬	少発 (局中発)	平年：少 前年：少	1) 圃場排水に努め、敷きわらを行うとともに、過繁茂を避けて、通風をよくする。 2) 被害葉を除去し、圃場外で処分する。 3) 同一系統薬剤の連用は避ける。
	疫病	最盛期： 7月下旬	少発 (局中発)	平年：やや多 前年：やや多	1) 圃場排水に努めるとともに、敷きわらを行う。 2) 予防散布を行う。
キュウリ	うどんこ病	最盛期： 7月下旬	少発 (局中発)	平年：少 前年：並み	1) 多肥栽培を行わず、適正な施肥管理を行う。 2) 同一系統薬剤の連用は避ける。
	べと病	最盛期： 7月中旬	少発 (局中発)	平年：多 前年：やや少	1) 圃場排水に努め、敷きわらを行うとともに、通風、採光をよくし、過湿を避ける。 2) 肥料切れしないよう、適正な肥培管理を行う。 3) 被害葉を除去し、圃場外で処分する。 4) 同一系統薬剤の連用は避ける。
ネギ	さび病		少発 (局中発)	平年：多 前年：多	1) 適正施肥に努め、草勢を良好にする。 2) 同一系統薬剤の連用は避ける。 3 薬剤防除の際には、展着剤を加用し、葉全体に薬液が付着するようにする。
全般	アブラムシ類		少発 (局中発)	平年：並み 前年：やや少	1) 対象作物により薬剤が異なるので注意する。
	ハダニ類		少発 (局中発)	平年：並み 前年：少	1) 対象作物により薬剤が異なるので注意する。

[果樹関係]

果樹名	病害虫名	予 報 内 容			防除対策および 防除上の注意点
		発生時期	被害程度	発 生 量	
ナシ	黒星病	最盛期： 7月中旬	少発 (局中発)	平年：少 前年：やや少	1) 同一系統薬剤の連用は避ける。 2) 発病部位は除去し園外で埋却等適切に処理する。
	黒斑病	最盛期： 7月下旬	少発	平年：並み 前年：やや多	1) 同一系統薬剤の連用は避ける。 2) 発病部位は除去し園外で埋却等適切に処理する。
	ハダニ類	加害初期： 7月上旬	少発 (局中発)	平年：並み 前年：やや少	1) 発生を確認したら早めに防除する。 2) 同一系統薬剤の連用は避ける。
ナシ カキ	カメムシ 類	加害盛期： 7月下旬	少発 (局中発)	平年：並み 前年：多	1) 発生を確認したら早めに防除する。 2) 同一系統薬剤の連用は避ける。
カキ	アメリカ シロヒトリ (第1世代)	加害盛期： 7月上旬	少発 (局中発)	前年：並み	1) 発生を確認したら早めに防除する。

[花き関係]

花き名	病害虫名	予 報 内 容			防除対策および 防除上の注意点
		発生時期	被害程度	発 生 量	
キク	白さび病		少発	平年：やや多 前年：やや多	1) 罹病株が周辺への伝染源となるので、抜き取り処分する。 2) 日当たり、風通しを良くする。 3) 同一系統薬剤の連用を避ける。
	アブラムシ 類		少発 (局中発)	平年：並み 前年：やや多	1) 同一系統薬剤の連用を避ける。 2) 圃場周辺の除草に努める。
	オオタバコ ガ	幼虫加害 初期： 7月中旬	少発	平年：やや少 前年：並み	1) 若齢幼虫期までに防除を徹底する。 2) 同一系統薬剤の連用を避ける。